

一條橋南詰
電話三六一四一



映画

晩餐八時

豊楽劇場
「晩餐八時」
「晩餐八時」は、三十三日間の
「晩餐八時」は、三十三日間の
「晩餐八時」は、三十三日間の

海外映演
「海外映演」は、三十三日間の
「海外映演」は、三十三日間の
「海外映演」は、三十三日間の

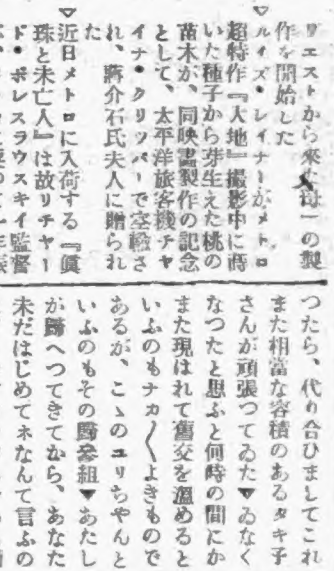
北支事變
「北支事變」は、三十三日間の
「北支事變」は、三十三日間の
「北支事變」は、三十三日間の

日本訪問
「日本訪問」は、三十三日間の
「日本訪問」は、三十三日間の
「日本訪問」は、三十三日間の

獨樂壇の大立物
「獨樂壇の大立物」は、三十三日間の
「獨樂壇の大立物」は、三十三日間の
「獨樂壇の大立物」は、三十三日間の

報道戦線
「報道戦線」は、三十三日間の
「報道戦線」は、三十三日間の
「報道戦線」は、三十三日間の

北支事變
「北支事變」は、三十三日間の
「北支事變」は、三十三日間の
「北支事變」は、三十三日間の



映画

晩餐八時

豊楽劇場
「晩餐八時」
「晩餐八時」は、三十三日間の
「晩餐八時」は、三十三日間の
「晩餐八時」は、三十三日間の

海外映演
「海外映演」は、三十三日間の
「海外映演」は、三十三日間の
「海外映演」は、三十三日間の

北支事變
「北支事變」は、三十三日間の
「北支事變」は、三十三日間の
「北支事變」は、三十三日間の

日本訪問
「日本訪問」は、三十三日間の
「日本訪問」は、三十三日間の
「日本訪問」は、三十三日間の

獨樂壇の大立物
「獨樂壇の大立物」は、三十三日間の
「獨樂壇の大立物」は、三十三日間の
「獨樂壇の大立物」は、三十三日間の

報道戦線
「報道戦線」は、三十三日間の
「報道戦線」は、三十三日間の
「報道戦線」は、三十三日間の

北支事變
「北支事變」は、三十三日間の
「北支事變」は、三十三日間の
「北支事變」は、三十三日間の

朝子茶寮
味覚食事
茶喫朗明
番七四一三〇通開話電
角場廣南通橋本日

乾眞眞館
五〇三〇三番

御挨拶
扇芳會館勤務中は種々御愛顧
を戴きまして有難く御禮申上
ます就きまして此度朝子の茶
寮に招かれて参りました何分
にも不馴れ者で御座います
何卒前々に倍しまして御愛顧
お導き下さいます様お願い申
します

皆様（元扇芳ベビー）
朝子の茶寮

明日の日曜は是非
銀座ギネマ
九紋龍長次
水戸黄門漫遊記の一節
大好評廿六日迄連続映

岡田眼鏡
専門店へ
東条通青陽ビル一階 電話3-2483
靴は金城
白靴賣つくし
正札より二割引
期間七月 廿五日より
三十一日迄
金城靴店
新東京一街通一四
電話二二五二番

満員感謝
帝都キネマ
ターザン映畫會大自熱的好評
明日の日は類猿人ザン

麗女
人生のライフであり
生き難い人生を樂し
くさせる
オアシスである
文藝新聞 ガンバル博士
在アンパルニにて

カフエー麗女の
開店サービス
三笠町通り
電話六一五六

麗女
人生のライフであり
生き難い人生を樂し
くさせる
オアシスである
文藝新聞 ガンバル博士
在アンパルニにて

[illegible]

製品の製造方法や賞状發表の証明
に重いてあります。

が、非常に私にあふ懐に思は
えますといはれる時が度々
したので、執筆はうすま
す。

製品の販売方法や賞状發表の詳細はこの「無品類」に書いてあります。

202

(上) 生々々々

しいと駈ける人が相當に多いと讀く。

そんなままで心の昏とを失つてしまつた人々を惡めばいいもの、但しは又どうした状態まで人々を過ひ詰めたこの時代の相を嘆けばいいものか？

弱さである
私みだぎやう日本人は極に弱であらうが、諸人は諸語を以て知つて居る程度にしか日かひ語を知らないのが多いやうな。

×

めづらしき風習をひいてこの二三日私に神妙に伏せて代

稻垣輝安

わが周圍にいらぬ尊のたち
をるを心にとめて思ふ日の
私達は手に手をとつて進

里見義郎

「お母さん、お父さんのたぐひの浴衣を洗濯に濡せるやうなだからイタチを引くつてしるやうだからよ」

海女は音中をヒトリ／＼抱いて飯つた娘さんが、モノサシで春申を量いて云ふ。

「なんな、磯い風にならうね。お母さんとあなたに海水浴に行かなくても肌がかゆいんだ。ナリをワテとできないでパリパリをソコオでないと、肌が熟知しないんだから。」

山の中に古池で泳いだこともあります。
そこはよく身投げのあるところ。

「見舞」

「一介ササラリッマ」であつたならその時またとなつてしまふし、よしたつたとつてもそれらに人々に興心をもたせなかつたであらう。此處にも文學界の大衆と文藝者の「距離」を私は感するのである。

統北純澄が、文學をやめるのが官廳や會社に出ると自認

閑居の暇で御見舞書をど
見舞状これも禮儀の中のもの
見舞お相目の顔で元氣あけ
お見舞を述べれば細い
襖袴の着き分けて見舞書

一

「モス」

「文藝」八月號が徳川に載せた「つづき」の欄が、へりの
者小説は「反つづき」とぞ稱せられぬが、讀んでみる
んだら、さういふことを「つづき」の反對といふは、さう
平てなことを作つて、嘲したの出來で、主人公を中
づから描き盡つてゐるのだが、どうもこののちで、
「つづき」の描き盡つてゐるのだが、どうもこののちで、
第「つづき」は表面のなかに終つてゐるのだが、どうもこののちで、
み出されてゐるのだが、どうもこののちで、
作者は文學の創造者たるには、つとまゝ必要で

近代短
の綱一

[illegible]

「佳作」
枕元いきなり坐る見舞が來

遠く坐す見舞をひかむ身と
 れり
 朋友は大きな聲で見舞に來
 孫連れて來て嫌はれる見舞
 正 龍
 御無沙汰は暑中見舞の端で
 三 び
 服装に云譯けのある見舞各
 勝
 「秀逸」
 見舞なを持つてくるなと叱
 龍

見舞

△月刊満洲（七月號）
六月を休んでこの月から
本販を出すことにした
いふのであるが、日本版
満洲版との違ひは、中味の
二十頁ばかりを別な

新刊
附贈
（係）
本欄紹介
の最新刊
本誌編輯
宛一部御
附贈成度
（係）

洲國の現行各種稅制につ
て最も要を得た敘述を與

かものち、四つ二五二具
大通市敷島(一五三銀)
工會議所(月一六銀)
軍庫(元化)新交知機、
萬之佐へ給ひ、御金全振
事を盛らるゝ海防調金係
△海州経済連(七月七號)
關東市清水港、津波毀
令等々被災、大連市穀島
八十二、大通商工會議所
十銀)
△斯民(七月十五日號)
の他の季節よりスギボツ
と他の二階の大隅を産
の勢北成興たりて、
の朝比呂安海、滿洲弘報
會(平九銀)
△正金週報(七月十六日號)
廣東省の新形問題、預金率
半引上置論(註)鐵骨公債
場等を掲載、正金銀行調
課)

中ありませんか。
まア何と云ふ勝感なイダツ
主をする人だ、とその逸
主を恨みよにはあられませ
でした。よくよく見るとそれ
非常に精巧に出来てる蛇皮
で造つてあつた玩具だつ
のです。

それにその玩具と一緒に手
が入れられて、一緒に手に
は鈍の皮は鷹けになります
貴女の危難をおうすりに
ますやうな、お送りします
一と書いてあるので初め
ホッとしたり主に感謝し
ホッとしたが、しかし開けた時はほいとは出しさ
でもマルタには出しさ
で、さすがにヒヤリとさせ
れました。

昭和十二年六月六日解
算人ノ氏名住所

[illegible]

元尚舉合資會社一、
朝日通八十五番地一、

省各材料、電機、鋼及建築材料販賣、前
日昭和二十六年六月五日
表社員西尾安雄、
石六萬圓無限期西尾安
金住所出賣種類價格
有限平新太郎吉林
南大路二六十五番
萬國有原藤原文明新
十五番地、存立

價還ハ抽籤ニ依ル買

[illegible]

ヲ代表スヘキ取締役石田榮造
○商號新設　一、商號新永榮
テル、營業種類宿屋營業
一、營業所新京富士町二丁目
二十八番地、商號使用者

新永榮町
三丁目廿六


新茶入荷
新嘉坡經吉得町一
電話 公認
電話即時金融
帖名其地多額貸

大連丸 船出帆

大連丸 七月 日
 奉天 九月 廿六日
 青島 九月 廿八日

新入荷

くさや、貝柱、粕漬



い面白一本目た出らそ

全部読切りの
大増刊號

戀愛・武俠・探偵・滑稽・隅から隅まで面白づくめ

小説講談落語實話映画薈

天晴 武士は渴しても

純情 ころの眞珠

純情 夏の輪舞

菊池寛

加藤武雄

片岡鐵兵

相馬大作

北澤寛

加藤武雄

北澤寛

夏の面白

最近傑作映画

蕃地の恋風

リビヤ白騎隊

海と山 避暑遊覽旅行案内

友情の彼方
不死鳥
殺人病患者
接吻の後に
ゆきずり人情
首提灯

系説傑作画譜
漫画納涼館
俳優奥多摩

父の悲曲
大鳥逸平
迷路の二人
戒名鬼千正
お灸
善運惡運
ガラマサどん
驅る歌
十年め
黒い胡蝶の死
文 覺
お美津簪
最後の火烙
勢力富五郎
忍道血風録



特積六十錢送料大日本雄辯會談社發行

画計別特

